

コラム：国宝松本城の世界文化遺産登録に向けた取組みについて

令和3年(2021)は、松本市が松本城の世界遺産登録活動を始めてから20年の節目の年となります。平成13年(2001)に松本市、松本市議会、松本古城会及び市内の文化ボランティア団体(57団体)で組織する「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会(会長：松本市長、事務局：信濃毎日新聞社)を設立させました。

それ以前の歴史を振り返れば、明治維新後、売り出され取壊しの危機にあった松本城は、市川量造(下横田町副戸長)や小林有也(松本中学校長)らを中心とする市民の尽力により、危機を免れ残りました。その後、昭和25年(1950)年国宝保存工事第1号として文部省直轄で行われた昭和の大修理から5年後の昭和30年(1955)10月1日に古式華麗な落成式を迎えました。

修理完成を祝うお祭りは、同1日から10日間、市を挙げ盛大に行われました。近くの祭りとなつた2日は、午前だけで市民・県外客を含め約10万人が集まったとされます。それ以降、市民や関係団体等の熱い思いや不断の努力により、天守国宝指定、松本城黒門の復興、二の丸御殿跡遺跡公園整備、松本城太鼓門復元等の史跡整備が実現しました。そして、松本城天守は創建当時の姿を残し、周辺環境整備は着実に進んできました。

松本城は、松本市民にとって地域のシンボルであり、アイデンティティであり市民の宝です。和合正治元松本市長は、戦後「中国から松本に引き揚げてきた際、松本城天守を見たら自然と涙があふれてきた。」と著書に記しています。しかし、市民の心の拠り所である松本城も、登録された世界遺産の問題(火災や来訪者管理、開発による周辺環境への負荷など)と同様に、何の策も打たなければ未来永劫ではありません。

「どうして、松本城は世界遺産になっていないの?」「なぜ、松本城は世界遺産をめざすんですか?」「世界遺産になると、何かいいことがあるんですか?」

市内の小学校で行った世界遺産の出前授業で、子供たちにこのように質問されるのは、大変嬉しいことです。松本城の未来を担うのは子供たちであり、後世に受け継ぎたい宝が松本城であり、そのための世界遺産登録です。



世界遺産 出前講座の様子

松本城の世界遺産登録に向けての現状として、平成18年(2006)に文化庁が国内の世界遺産暫定一覧表に記載すべき文化遺産を選定するための公募を初めて実施しました。翌年にも2度目の公募が行われ、本市は長野県と共同で2回応募しましたが、平成20年(2008)に「カテゴリーI b」(※)という結果に終わりました。その後、城郭や世界遺産の専門家を交えた調査研究の成果を踏まえ「近世城郭の天守群」という方向性で世界遺産を目指しています。

今後は当面、国内の世界遺産暫定一覧表への記載を目指し、世界史における近世城郭の位置付けなどの調査研究と、更なる市民への普及啓発活動を行うことが必要となります。唯一無二の存在である松本城をより身近に感じ、また、より深く知っていただき、松本市民全体で世界遺産登録を目指していただくことが望まれます。松本城を次世代へ引き継ぐための世界遺産登録には、市民の思いとパワーが必要不可欠なのです。そして先に述べたとおり、我々松本市民は先人より受け継いできているものがあることを忘れてはいけません。

※ カテゴリーI bとは、主題に関する学術的な調査研究を十分に行い、主題及びこれに基づく資産構成に関して一定の方向性が見えた段階で、関係自治体により作業を進めるべきものとされています。